

本会は、愛知万博問題を契機に注目された「海上の森」を里やまとして守り、楽しむために汗を流す市民が、行政との協働で立ち上げたものです。



昨年の実りとイノシシ被害状況の一部

## 深刻、イノシシ被害

海上の里の田畑の作物にイノシシ被害が広がっている。夜の無人になった頃に現れてようやく実りつつある作物を踏み倒し、掘り起こし、食い散らかしていく。海上の森の会ではあいち海上の森センターと合同でイノシシ対策会議を開き、侵入防御のためのワイヤーメッシュ柵の設置などの対策を行っている。

被害は屋戸町、吉野町といった麓の山口地区にも広がりつつあり海上だけの問題ではなくなっている。

### イノシシ防御(ワイヤーメッシュ)柵設置作業

	実施日	場所	枚数	参加者
第1回	2006.12.24	海上集落北東	80枚	20名
第2回	2007.2.25	" 北西	50枚	15名
第3回	2007.5.20	" 南東	80枚	22名
第4回	2007.7.29	" 南西	100枚	22名
第5回	2007.8.11	" 中央	50枚	11名
第6回	2007.8.22	" 南東	30枚	6名

### 海上の森だより第9号目次

海上の森未来予想図2	P.2
ホテルから見た海上の森	P.3
海上体験記	P.4,5
ギャーロメ通信	P.6,7
会・グループ報告	P.8~10
運営委員会と事務局より	P.11
9月~12月の行事予定	P.12

海上の森の会 会長 木村 光伸  
事務所 〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1  
「あいち海上の森センター」内  
「海上の森の会」事務局  
TEL&FAX 0561-21-9298 (留守電対応)  
e-mail: [kaisho\\_satoyama@yahoo.co.jp](mailto:kaisho_satoyama@yahoo.co.jp)  
ホームページ <http://kaishonomori.com/>



ぼくはじゅうねん君。前号(海上の森だより第8号)からつづく「海上の森がこうなったらいいな」シリーズです。



**：まず海上の森の自然ってどんな自然なのか、おさらいしてみよう！**

海上の森はモザイク状にさまざまな自然環境があることで、生物の多様性が保たれている森と里だ。山の緑を見渡せば、スギ・ヒノキの人工林、コナラを中心にした雑木林、マツ中心の疎林。里では最近、竹林が目立っている。田んぼという水辺があり、畑が耕作され、定期的に草刈をすることで維持されている草地。畦や道端の草刈は大切だ。地表を流れる小河川、地下では見えない地下水の流れが豊かだ。

地質は花崗岩と砂礫層からなっていて、一旦、堰堤工事や自然の攪乱が起こると、砂礫層では湿地が生まれる。多様な環境が東海地方の固有種から日本海型や暖地系の植物までを育み、そこには虫がいるから、野鳥も営巣し、都市に近い自然ながら野生動物も暮している。結果として絶滅の恐れのあるレッドリスト上の生物が多数生息していることになる。



**：海上の森にはさまざまなモノサシがある。人から分けると3種類の派かな。**

**耕作を続けて暮してきた人たちは、里山地元派。**

古墳がある昔から延々と人の暮らしが続いてきた地域だ。海上の森が里山と呼ばれる地域の元をつくってきた人たちだといえよう。田んぼ耕作の跡継ぎ問題。減っている田んぼへの水供給量。山を覆う竹林。断たないイノシシの被害など苦勞は多い。

**次に、森を楽しんで歩いている人たちは、通称自然保護派。**

海上の森の会には、ガイドの申し入れが後を絶たない。海上の森の自然が豊かであることを気にしている人たちといえよう。楽しんでいるばかりでなく、調査をしている人や、森の手入れをしている人もいる。

**そして、森を管理する人たちは、手入れ派。**

森が荒れていることを心配し、マイチェーンソーまで購入して管理に乗り出す人たちだ。採算のとれない人工林を少しでも明るくしたいと、きつい山仕事に挑戦している。



**から、「かいしょのもり」くんへ**

海上の森センターに堂々と未来予想図が提示される日がきてほしい。さまざまなモノサシに向き合い、調整しながら未来予想図を示すのは責任重大ではあるけれど、これこそがセンターの仕事なのだし、みんなが参画できるのは夢がある。それが責任と愛情を生むだろう。



**：このシリーズでは、こうなったらいいなに近づくため、さまざまな視点やモノサシで森を見ていくことにしよう。**

今回次頁には、1998年から山口でホテルを守るために活動を続け、牽引役を果たしてきた出口さんが登場。果たしてホテルから見た海上の森とは？

(曾我部行子)

## 吉田川のゲンジボタル

ゲンジボタルは日本で最も大きなホタルです。幼虫時代をきれいな水の中で生活するため水や緑に恵まれた自然豊かな場所が必要となります。

以前はもっとたくさん飛んでいたのですが、1963年からの土地改良事業で吉田川のゲンジボタルは絶滅したとされていました。しかし、1980年頃から自然復旧し始め、再び多くのホタルが飛び交うようになりました。

他所の地域では何千何万とホタルの幼虫や餌になるカワニナを毎年放流し、飛翔させている活動が多い中、海上の森に端を発する吉田川では全国的にも珍しい自然繁殖を試みており、水辺の環境を守ることからホタルの保護活動を行っています。

例えば、ホタルの飛翔地区が農業用排水路と吉田川沿いなので、ホタルの「休憩・産卵・孵化」に必要な水辺の草を確保するため、農地権者に毎年5月中旬より田の畦道や水路周辺の草刈をしないようお願いし、そして幼虫が水辺へと移り終えた頃、例年7月の第4日曜日に山口ホタルの会、山口まちづくり協議会、地元住民の方々が協力して一斉除草をするようにしました。こうした活動を始めて2、3年後からは確かな手応えを感じられるようになってまいりました。

自然が相手ですので思い通りにはなかなかいきませんが、ホタルが棲みやすい恵まれた環境を整えていく活動を今後も続けて行きたいと思います。

(出口なほ子)



平成 18 年度ゲンジボタル調査結果(東部丘陵工事事務所作成)

- (1) 調査時期：平成 18 年 5 月 22 日～7 月 18 日(調査を実施した日数は述べ 14 日)
- (2) 調査範囲：吉田川(矢田川合流点～広久手第 2 池上流)水路(T 字水路(EFI)、L 字水路(GJH))その他(環境水田(K)) (記号は地図参照)
- (3) 調査方法：夜間 8 時～10 時頃、2 名 1 組で吉田川や水路に沿ってゆっくりと歩き、ゲンジボタル成虫の発光により確認した個体数を区間ごとに記録

### 出現時期

- 出現時期は平成 17 年と同様に遅めで、5 月 30 日に L 字水路、環境水田から出現し始めました。吉田川上流部では例年通り 7 月中旬まで見られました。
- 最盛期は L 字水路で最も早く 6 月上旬～下旬でした。吉田川上流部は最も遅く 6 月末でした。
- 出現時期、最盛期共に昨年(17 年)よりも若干遅く、平成 14 年度～16 年度と比較して 10 日程度遅れました。

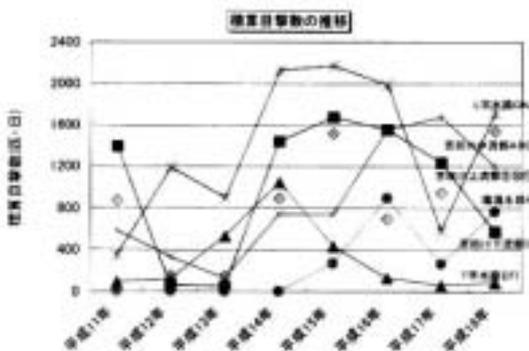
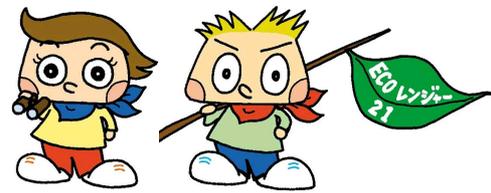


図3 ゲンジボタル積算目撃数の推移(平成11年～18年)

積算目撃数は毎日調査を行ったと仮定して、毎日の目撃個体数を調査開始から終了まで足したもの。未調査日の目撃個体数はグラフより求める。

推定総羽化数 = 積算目撃数 ÷ 平均寿命(3.9 日) ÷ 目撃率(1.0)

【「ホタルの水、人の水」遊磨正秀(1993)を参考】



## 海上の森の水辺を観察しました

### 環境教育プログラム「デンソーECOレンジャー21」瀬戸コース

#### 海上の森の水辺「里山の水辺の生きもの」

去る6月2日(土)に海上の森の中を流れる吉田川で「デンソーECOレンジャー21」瀬戸コースを開催しました。

「デンソーECOレンジャー21」は2001年から株式会社デンソーが社会貢献活動のひとつとして提供している環境教育プログラムです。2005年に愛・地球博の瀬戸会場で「市民参加プロジェクト」のひとつとして海上の森の自然探検ツアーを実施したのをきっかけに、昨年から「瀬戸コース」を開設しました。

今年は愛知県と三重県の事業所周辺を中心に7つのコース(14日間)を開催しています。

今年の瀬戸コースのテーマは「里山の水辺の生きもの」。

参加者は愛知県内から集まった小中学生とその家族、36名。

講師はご存知、水辺を守る活動を継続されている名古屋市水辺研究会の國村恵子さん。

そして4つのグループのリーダーを務めてくれたのも名古屋市水辺研究会のみなさん。さらにデンソーグループの社員やデンソー山岳部のメンバー、学生ボランティアさんなどがリーダーの補助をして運営しました。



さあ、海上の森へ！

参加者は、リーダーから川の生きものを捕まえるコツを教わり、さっそくチャレンジ。たくさんの生きものに出会いました。



出会った魚たち

たくさんの山と谷、それぞれの谷に小川が流れ、その小川が集まって吉田川となり、矢田川、庄内川と合流する。そんな吉田川の源流と中流域を探検し、水辺の生きものとその環境を調べてみました。

まずは吉田川の源流探検。この地域にしか棲んでいない貴重な生きもの「ホトケドジョウに会いに行きましょう！」という國村さんの呼びかけで源流に向かいました。



源流探検「これなに？」



午後は吉田川中流域の生きもの調査。水温は源流より6度も高い22。

家族で参加した子どもたちはたくさんの種類の生きものを捕らえることができ、大満足。カワムツやカワヨシノボリ、メダカなど魚の仲間やザリガニやヌマエビの仲間、ヘビトンボやオニヤンマ、カゲロウなどの水生昆虫の仲間、カワナなどの貝の仲間など、本当にたくさんの生きものを発見しました。



吉田川がさがさ

最後にあいち海上の森センターの工作室に戻って、班ごとに川で調査した生きものをまとめました。今回の水辺探検のねらいは、水辺の生きものを見て、捕らえ、触り、そのおもしろさを体験し観察することによって、里山の多様な水辺の自然環境がその場所に適した生物を育てていることを知り、水辺の重要性や魅力に気づいてもらうことでした。



海上の森の自然やそこに棲む生きものたちは、大勢の訪問者を温かく迎え入れてくれました。美しく、力強く命を育むこの水辺に親しむことができた子どもたちがこれからどう行動してくれるか、とても楽しみです。



工作室でまとめ

今回の開催にあたり、「あいち海上の森センター」には開門時間を繰り上げて会場準備へのご配慮をいただきました。今後、「海上の森」発の活動をさらに充実させるために、あいち海上の森センターとの協働を強化できるように取り組みたいと考えます。

開催日時 2007年6月2日(土) 9:30~15:00  
 開催場所 あいち海上の森センター、海上の森(吉田川)  
 講師 國村 恵子氏(名古屋市水辺研究会)  
 参加者 小中学生とその家族 36名  
 スタッフ 名古屋市水辺研究会メンバー、デンソーグループ社員・山岳部ボランティア、学生ボランティア 37名



海上の森センターのデッキにて

(株式会社デンソー 総務部企画2室)

いっばい あそぼ **むしやろめ** 通信 NO.3-0

セミの鳴き声が、気付けば「ゴロゴロ」や「スズムシ」にバトンタッチ。実りの秋がやってきました。木の奥をついばみながら散策したり、山栗やキノコを夢中になって採っていると、ヤガの方からカチカチカチとほにやうせわしい音が…。ぞう！スズメバチの警戒音

スズメバチの中で  
世界最大の  
オオスズメバチ

気を付けよう

秋はエサ不足(昆虫など)でイライラ  
新しい女王バチの誕生でソワソワ



黒はバチの攻撃色... 黒い服はさける  
頭は中昌子をかぶって守る  
近づいてきたら... 攻撃前の警戒音  
そこからほばれる

ゆっくり後ろに下がるか... しゃかんでバチの視線から消える

刺されたら



- みずであらいほがす
- きずのちからどくとすいだし (ポイズンリムーバーをつかうとこうがまし)
- むしさをのくすりをめぐる
- ほれいざいほなどでひやす

念のため病院で受診してね

ちいさいころ、バチにさされたら おしこをかけるとおおきくよきいた。でもどうやらただのめいしんらしい。



ほかにもいろいろなるバチがいろいろ。

秋の七草

○におなじひらがなをひとついれてね  
1つわかるとぜんぶわかるよ





6月には、「学びのつどい」として、23日(土)に森山昭雄さんを講師にお願いし、午前中は海上の山を歩きながら現地で地質学と植生との関係を読み、午後からは里山サテライトで「東海地方の活断層と地震の話」を、スライドを交えてお話しいただきました。企画さなかに新潟県中越沖地震が起き、最近の地殻の動きに関心が寄せられていたこともあって、参加者との大変熱心な討議もできました。

同月30日(土)には「学びと交流のつどい」として、「技の交換会」と「海上・ヘイケボタル観察会」がありました。第1回目の技の交換会では参加者が地元の鈴木保親さんにコムギカラによるホタルカゴの作り方の手ほどきを受けました。奮闘の成果は、現在、あいち海上の森センター1階展示スペースに展示されております。

他にも「ホーホー笛」やおなじみの竹とんぼやミニ藁草履などいろいろな「技」が披露されました。



手前二つはストロー製



口紅じゃないよ!



ホタルの観察会前に出口なほ子さんにゲンジボタルの一生や環境の変化などについてスライドを交えて話していただき、子供たちからも熱心な質問がホタルに負けないうらい飛び交いました。夜暗くなってから弘法堂南で行われた蛍の観察会ではヘイケボタルが昨年より多く観察され、また昨年までほとんど見られなかったゲンジボタルが四ツ沢から海上入口駐車場付近で観察されました。

9月23日には「月見の宴と津軽三味線鑑賞会」があります。今年も子供たちの団子盗みがあるでしょう。

また、10月27日には山川一年さんの「海上の歴史(3)」があります。今回は近世から近代に至る頃の海上が舞台です。

11月25日はいよいよ収穫感謝祭です。もちや芋煮など里の秋の幸を頂きましょう。(伊藤)

### 森づくりグループ

間伐作業でいい汗かきませんか? 今年も作業現場への進入路づくりから始めましょう。

今年度第1回作業: 9月22日(土) 11時サテライト集合! 1時間ほど作業します

作業内容: 草刈り、下草刈り、区割り作業

服装・持ち物: 作業のできる服装(着替えも)、ナタ、鋸、弁当、飲み物

お昼を食べながら、今年度の作業計画も打ち合わせします。ご希望、ご意見大歓迎!

福田 澄夫(電話・fax 兼 0561-83-0908)

あいち海上の森センターが当会会員を対象にした「森の教室(技能向上編)」を開催します。詳細は同封のチラシを参照の上、センターに直接お申し込み下さい。(福田)

### 環境保全グループ

10月6日(土) 9時30分海上の森入口駐車場集合で、環境保全活動を行います。海上の森をきれいに掃除し、里山を守る活動です。屋戸橋から海上集落までの道路沿いのごみの回収をします。昼までの予定です。気軽にご参加ください。同封チラシ参照ください。(馬宮)

## ツアーグループ

今年最初のツアーを6月9日に実施しました。多くの応募者が参加。しかし、朝から小雨が降り、コースを変更して歩きました。海上の里の古民家に着く頃には雨も上がり、昼食後用意した竹で参加者全員がナイフで削って箸作りをしました。

第2回目のツアーは9月15日、第3回は11月10日に実施します。海上の森の会の皆さんもガイド役で多数参加ください。

連絡はツアーグループ山田耕二(090-2686-8402)まで

(山田 耕二)

## 里づくりグループ

6月2日 田植えから19年度の「里の教室」がスタートしました。気温が思うように上がらず苗の生育が心配されましたが、今は順調に育っています。畑もサツマイモの植え付け作業、ジャガ芋や夏野菜の収穫まで進んでいます。暑い日差しの中、田畑の草取りは大変な作業ですが、収穫の楽しみは格別です。今年から海上の収穫物を使った料理を作ることになりました。今回はカレーとゴーヤチャンプルです。使用するジャガ芋、タマネギ、ゴーヤは海上で人参とナスは屋戸でとれたものです。8月25日の作業に参加された方々は里山の料理に満足されたことと思います。また、この日は竹でしゃもじや菜ばし、竹笛作りにも汗を流しましたがこのニュースは次号でお話します。



カレーライスいただきま〜す

今年も作物が育つにつれイノシシの被害が増え頭痛の種となっています。今年はワイヤーメッシュ柵を3回に分けて設置しましたが、全体をカバーするまでには至っておりません。設置後もトタンだけの部分や竹の柵など弱い部分から数回侵入し、その都度柵の補強に追われています。



イノシシに突破されたトタン板

11月17日(土)に予定していた収穫感謝祭は1週間後の11月25日(日)に変更となりました。(鈴木 俊憲)

## 自然環境調査グループ

毎週木曜日に生物季節調査を継続。今年の春夏の傾向は、花は、シデコブシ、エゴノキ、ヤマボウシが多く見られ、フジは少なかった。鳥は、サンショウクイの声がよく聞かれた。

7月31日、センターが関西森林総研に依頼したカシノナガキクイムシ調査に同行。駐車場には、枯れたコナラが夏空に目立っているのに気づいた人はどのくらいいるだろう。被害は広がっているようだ。経年数の高い大きなコナラほど形成層が厚いので狙われるらしい。遷移の一環という説もあるが、まだ生態も不明の点が多い。ミズナラに近いモンゴリナラはさらに被害の恐れもあり、注視していきたい。

8月2日、日本自然保護協会の自然しらべ2007、今年は「夏休み セミのぬけがらをさがせ！」に挑戦してみた。調査日ルート沿い、みんなで拾ったぬけがらを、家に帰ってからルーペ片手に調べた。結果は、ミンミンゼミ14、アブラゼミ3、ツクツクボウシ10、ニイニイゼミ1、不明2だった。触覚の第2節と第3節の長さの比較は難しいけれど、わかってくると面白い。

8月26日「海上の森を訪ね、夏の花と虫を観察しよう！」を当グループ主催で開催。好天の暑い日となり、参加者は主催グループ以外で4名と少なく、次年度の再考が必要かもしれない。



(曾我部)

## 民家保全グループ

7月1日(日)には生活史調査グループとの合同で、鈴木保親家旧宅内の片付けをし、裏にセド山から流れ込んできた山砂と落葉を除去しました。同月29日(日)には鈴木保親家の裏山から張り出している木枝を払い、屋敷周りの整備をしました。

9月2日(日)には同家母家裏の側溝と、里山サテライト敷地の整備(草刈りなど)を行います。(三輪)

## 案内巡視グループ

かたりべの家(海上の里サテライト)を拠点に訪問者の案内、問い合わせに対応していく。里山の自然が守られ、環境モデル地区を目指し巡視活動を行うものである。

案内巡視は森の会の会員相互により日常的に行うが、毎月2回第2、第4日曜日は重点日として10時にかたりべの家に集合し、15時までの間に周辺及び全域の幹線道路を案内巡視の腕章をして見回ることとする。

今後、この活動に協力して下さる方は、森の会まで連絡ください。(鈴木 五男)

## 野あそびグループ

6月30日のごぎり体験とホタル観察を実施。ホタルが誘うのか、思いがけない大勢の参加者でした。ほとんどが初めてのごぎりを使う子供たちでしたが、時間がかかっても最後まで自分の力で竹を切りキャンドルスタンドを作りました。ろうそくにはマッチで火を点けました。(マッチ自体が珍しいのか、消してはまた点ける子供もいました)弘法堂までキャンドルライトを頼りに歩いてのホタル観察会でした。



7月22日(日)海上の森センター入口の橋下で川に棲む生き物を捕まえて観察(通称ガサ入れ)を行いました。前日まで台風が運んだ大雨が嘘のような青空の下、ペットボトルで自作した仕掛けにサワガニが入ったりタモでガサゴソしていたらホトケドジョウが捕まったりで夏の一日を満喫しました。またこの日は会員の土屋さんから差入れの赤ちゃんスズムシを参加者で分けて持帰り秋の楽しみがひとつできた日でもありました。



7月29日(日)年間予定外でしたが、井戸水を使った流しそうめんを海上の森入口でもある大澤市夫さん宅で実施しました。当日朝切ったばかりの竹でそうめんを流す樋と箸、ソバ猪口を自作し、流れるそうめんに子供も大人も満腹中枢を麻痺させておいしく戴きました。木村会長からは素麺をたくさん提供いただき、大澤夫妻からは朴葉すしの作り方までご披露いただきました。

8月26日(日)今度は海上の森入口駐車場の海上川の新しい橋の下で、前回とは様子が違って小石の川でのガサ入れを行いました。スタッフ、会員の子・孫も含め計32人も参加者が集まりました。驚いたことにこちらの川でもホトケドジョウが捕まり、改めて海上の森の豊かさを感じさせられました。浅くて穏やかな流れは意外にも魚影が濃く、子供の水遊びだけでなく、涼をとりに地元の方も訪れる癒しの場でもありました。(早川)

## 生活史調査グループ

7月1日(日)には、民家保全グループと合同で、鈴木保親家旧宅内の保全作業をしました。(伊藤)

## 情報グループ

ホームページ更新しました。ご覧ください。

(冬木)

## 第 34 回～第 37 回運営会議で話し合われた主なこと

運営会議は傍聴できます。ご希望の方は事前に事務局までご連絡をお願いします。

### 第 34 回運営会議 2007.5.13

イノシシ防御柵の設置について協議し、会から資材費 15 万円の出資を決定。/ ため池勉強会の立ち上げについては、ため池の所在地、所有者等の調査を行い、今秋には現地調査の実施を行う。/ センターの展示替えへは、会の年間行事に決まる。/ 「人と自然の共生国際フォーラム」作業部会委員の人選等について協議。馬宮副会長を選出。/ 第 2 回自然関係施設・活動団体連絡協議会（仮称）に木村会長が委員として参加。/ 「全国野鳥保護のつどい」に参加の報告。/ 滋賀県朽木村いきものふれあい友の会、名古屋市昭和区生涯学習センターからガイド依頼。

### 第 35 回運営会議 2007.6.10

イノシシ防御柵の設置並びに今後の対策について協議。/ 里の民家の修復並びに修復に伴う助成金申請について検討。/ 各団体からのガイド申し込みの有料化並びに諸活動一般に対する報酬のルール化について協議したが、結論に至らなかった。/ 「人と自然の共生国際フォーラム」作業部会委員に馬宮副会長を決定。/ センターからは、森の教室への指導員依頼、あいち海上の森大学、EXPOエコマネーについて、平成 20 年度新規事業の提案、シデコブシ研究報告の開催などについて報告があり、検討。/ せと環境塾（瀬戸市）から当会に参加の要請。

### 第 36 回運営会議 2007.7.16

イノシシ防御柵設置の実施並びに今後の計画について検討。狩猟免許取得へ 4 名が参加することに。/ 会のシンボルマーク並びにのぼりの作成について検討。/ 会とセンターが今後どう協働していくべきか、センターは森の将来像をどうしようとしているのかが見えないことについて、主に自然環境調査グループより質問が出、今後の継続的な課題とした。/ 里の民家修復の助成は今回見送りとした。/ ツアーガイド依頼への謝金は相手次第であるが、その見極めが難しくルール化は見送りとなった。/ センターからモニタリングサイト 1000（環境省が 100 年の自然の移り変わりをみつめようと設定）に海上の森が選ばれた場合の協力要請があった。/ せと環境塾参加の報告で、ホタル放流に関しては不問であることへ疑問が出された。（あらためて、自然のままの保全を行う海上の森の貴重性を認識）

### 第 37 回運営会議 2007.8.19

イノシシ防御柵設置の報告と今後の計画について検討。（海上の森の会支出 35,000 円）/ センターから提示された「海上の森事業用地維持管理（歩道等整備）事業」について質疑応答。計画段階で海上の森の会に概要を知らせて貰うよう要請。/ センターと当会が現地を共に歩き森の将来像について意見交換することを決めた。/ モニタリングサイト 1000 についてセンターから説明があり、コアサイトを引き受ける条件は地域コーディネーターと調査員を会で引き受けられるかどうかであることが判明。（運営会議では詳細不明のため後日副センター長に確認）/ 12 月開催予定のシンポジウムは、シデコブシ研究報告会に決定。/ 大府市セレクトナのガイド報告。  
(似内)

## 事務局からのお願いとお知らせ

平成 19 年度会費は 8 月 10 日現在、1 賛助団体を含め 198 名 250,500 円を納入していただいております。前回もお知らせした通り、会費納入者は今年度のボランティア保険に加入しておりますので、行事で万一事故のあった時には事務局へ申し出て下さい。未納の方は裏表紙の郵便振替口座番号を確認の上、会費の納入をお願いいたします。  
(事務局 藤野)

## 9月～11月の行事予定

9 月	23日	<b>月見の宴と津軽三味線鑑賞会</b>	【学びと交流の集い】	担当：出口
	午後3時	集合：里山サテライト	持物：飲料水、懐中電灯	対象：一般、家族 参加費：大人300円（非会員は鑑賞費込みで500円） 月見団子他を作ります
9 月	23日	<b>月明かりで夜の散歩と虫の観察</b>	【野あそびグループ】	担当：早川
	午後4時	集合：里山サテライト	持物：飲料水、上着、懐中電灯	対象：会員とその家族 「月見と三味線鑑賞」に自動参加になりますので上記参加費が必要になります
10 月	6日	<b>海上の森の美化活動(ゴミ拾い)</b>	【環境保全活動グループ】	担当：馬宮
	午前9時半	集合：海上入口駐車場	服装：長袖、長ズボン、軍手	対象：一般、家族 どなたでも参加できます(障害保険代は海上の森の会で負担します)
	21日	<b>秋の草花を訪ねて</b>	【自然環境調査グループ】	担当：山本
10 月	午前9時半	集合：海上入口駐車場	持物：昼食、飲料水	対象：一般、家族
	27日	<b>海上の歴史(3)海上の近世～近代</b>	【学びと交流の集い】	講師：山川一年
11 月	午後1時	集合：里山サテライト	持物：飲料水、筆記具	対象：中高生、一般
	4日	<b>秋の落とし物あそび</b>	【野あそびグループ】	担当：早川
11 月	午前10時	集合：里山サテライト	持物：飲料水、ビニール袋、ハシ	対象：会員とその家族 会の活動は午前のみですがゆっくりできる方は昼食も（友達誘って当日入会も可）
	25日	<b>収穫感謝祭</b>	【学びと交流の集い】	担当：鈴木(俊)
	午前9時半	集合：里山サテライト	持物：飲料水	対象：一般、家族 参加費未定、500円以下の予定

いよいよ活動開始します！

【森づくりグループ】第1回活動日：9/22 里山サテライト集合

昼食時に今年度の活動日を打ち合わせます。

あいち海上の森センター募集行事のお手伝い

【ツアーグループ】活動日：9/15、11/10 海上入口駐車場集合

【里づくりグループ】活動日：9/22、10/13、11/3,25 海上の里集合



### 問い合わせ先一覧

【学びと交流の集い】	伊藤	T&F 0561-84-7044
【生活史調査グループ】		
【民家保全グループ】		
【野あそびグループ】	早川	T&F 0561-21-9863
【自然環境調査グループ】	山本	T&F 0561-54-9067
【ツアーグループ】	山田	T&F 0561-21-2947
【森づくりグループ】	福田	T&F 0561-83-0908
【里づくりグループ】	森センター	TEL 0561-86-0606 FAX 0561-85-1841

### 編集後記

記録的な猛暑も一区切り、漸く過ごし易くなってきました。表紙にも書いたイノシシ対策、敵も必死なようで弱いところを狙ってしつこくやって来ます。会員の中には今年度の愛知県狩猟免許を受験した者もいます。知恵比べの方はまだまだ続くのでしょうか？  
**引続き求む！会員各位の原稿や写真の投稿（早川）**

### 随時入会受付中！

年会費（4月～翌年3月）1口1,000円1口以上  
口座記号番号 00820-6-185628  
加入者名 「海上の森の会」